

**なぜ中国からの日本語学習者が香港に留学するのか
—中国大陸からの日本語学習者へのインタビューを通して—**
**Why Japanese language learners from the mainland China study in Hong Kong:
From the interviews with Japanese learners from the mainland China**

黄 偉明
香港理工大学

要旨

本稿では、香港の大学院修士課程で日本語を専攻する中国大陸からの学習者9名への半構造化インタビューから、彼・彼女らが留学先としてなぜ日本ではなく香港を選んだのかを議論する。調査の結果、調査協力者達が香港の大学院は修学期間が短く、優れたカリキュラムを提供していると考えていることが浮き彫りとなった。また、より国際的な地域とされる香港では、日本語だけではなく英語のスキルも向上できるのではないかと考えていることも明らかになった。そして、将来のキャリアを目指して香港を選んだという声もあった。

キーワード:

香港、中国大陸からの日本語学習者、インタビュー調査

なぜ中国からの日本語学習者が香港に留学するのか — 中国大陸からの日本語学習者へのインタビューを通して —

黄 偉明
香港理工大学

1. はじめに

筆者は日本語を学ぶため香港の大学院に現在留学しているが、「日本語を本格的に勉強するなら、日本へ留学したほうがよいのではないか。なぜ香港に留学したのか」という質問をよく受けてきた。確かに、日本へ留学すれば、日本語を日常生活で使う必要があるため、日本語が上達することは間違いないであろう。また、日本にもいろいろな大学院があり、あえて日本語を学ぶために香港を選ぶ必要はないのも事実である。しかしながら、筆者自身が大学院に通い、中国大陸からの他のクラスメートとやりとりする中で、香港へ留学する目的の多様性に気づくに至った。そこで、本稿では、香港の大学院で日本語を専攻する中国大陸からの学習者達が、なぜ日本の大学院に行かずに、香港の大学院で日本語修士を専攻するのか議論する。

2. 先行研究

文部科学省（2013）総計調査によると、日本での中国留学生の数は 86,324 人で、留学生の約 63% を占めている。日本に留学する目的について、筆者の周囲の中国大陸からの学習者に尋ねたところ、日本語を向上させ、実際に日本の文化を体験し、自身の視野を広げるといった目的で留学を希望するとの答えが多かった。譚・渡邊・今野（2010）の在日中国人留学生を対象とした調査によると、日本へ留学する理由として、留学はおもしろい、自分の視野を広め、人生経験を豊かにできる、日本語を学びたいなどがあるという。また、劉（1996）の中国人日本語学習者を対象とした調査では、日本へ留学する理由として、日本の近代的知識と技術を身につけるためと答えた者が最も多かったと指摘し、次に日本語を勉強するためが続いていたという。このように日本へ留学する中国大陸からの学習者の多くは、日本語を勉強することに加え、自分の視野を広めたり、新たな知識を得たいという気持ちが強いということが窺える。

では、一方で、中国の日本語学習者はなぜ香港へ留学するのだろうか。香港入境事務処（2012）によると、中国大陸から香港へ来る留学生の数は 2010 年の 10,129 人から 2012 年の 16,401 人へと増えている。また、2012 年 8 月 3 日の『南方周末』によると、2012 年の中国大陸から香港の大学へ留学した学生数は約 1,600 人であるという。これらのことから、大学院の留学生数が極めて増加していることがわかる。では、中国大陸からの学生にとって、香港への留学はどのような魅力があるのだろうか。王（2006）によると、香港の大学では 1998 年から中国大陸からの学生を募集するように

なったという。その後、中国大陸の学生の間で香港の大学へ進学することが人気になっている。多くの優秀な学生は大陸の有名な大学を諦め、香港の大学・大学院に留学するようになってきた。中国大陸の人々が香港に留学する主な理由としては、香港の大学の施設や課程は優れており、卒業後の就職にも強いと考えているからであるという。また、劉（2012）によると、大学生が高額な奨学金を得られることも重要な理由となっていると指摘している。しかしながら、これらの研究は日本語学習者に限らず、一般的な学生を指しており、これまで中国大陸から香港へと留学する日本語学習者に関する調査は筆者の知る限りでは皆無である。そこで、本稿では、香港の大学院で日本語修士課程を履修する中国大陸からの学習者へ半構造化インタビューを行い、香港を留学先として選んだ理由を探ることにした。この調査を通して、中国からの日本語学習者が留学する際に、どのようなことを求めているのかを検討し、留学生へのインタビューを第一次資料として、今後日本語修士コースを発展させるための方向を探求する第一歩にできればと考えている。

3. 調査の概要

3.1 調査協力者

本調査では、香港の大学院の日本語修士課程に通う中国大陸からの学習者9名へインタビューを行った。以下に調査協力者のプロフィールを記す。

表1 調査協力者のプロフィール

名前(仮名)	性別	香港留学する前の 就職経験	日本留学の経歴	言語
ケリー	女性	4年	2年	北京語、日本語、英語
メアリー	女性	1年	2年	北京語、日本語、英語
ローズ	女性	なし	なし	北京語、日本語、英語
オーブ	女性	なし	半年	北京語、広東語、日本語、英語
アラン	男性	なし	1年	北京語、広東語、日本語、英語
リサ	女性	なし	1年	北京語、広東語、日本語、英語
フローラ	女性	なし	1年	北京語、広東語、日本語、英語
アイビー	女性	なし	なし	北京語、日本語、英語
ノラ	女性	4年	なし	北京語、日本語、英語

3.2 データの収集方法

インタビューは2013年7月に実施した。インタビューでは、1) なぜ日本語を勉強し始めたのか、2) なぜ香港の大学を選んだのか、3) 大学院で何が一番勉強になったのか、4) 卒業後のキャリアをどのように計画しているかという4つの質問を中心に

一人 30 分から 1 時間ずつ行った。調査協力者には中国語でインタビューを行い、録音した全データを書き起した。そして、書き起したデータを全て筆者が日本語に訳し何度も読み込みながら、調査目的についてのカテゴリーを生成した。

4. 結果と考察

4. 1 香港の大学院を選んだ理由

調査協力者らが香港の大学院を選んだ理由は概ね一致していた。リサが「インターネットで香港の大学の履修科目を調べ、興味を持つようになった。また、修学期間が短い」と述べるように、本調査の協力者全てが就学期間の短さとカリキュラムのよさから留学先を選んだと述べていた。

中国大陸の大学院の雰囲気はあまりよくなく、いつも試験ばかりだ。香港の大学で学習することは実用性があると思う。(アイビー)

中国の大学院は修学期間が長いし、雰囲気がよくないから、中国の大学院へは行かなかった。また、日本の大学院と比べて、香港の大学院は時間もお金もあまりかからないと思う。(フローラ)

中国の大学院も日本の大学院も修学期間が長すぎる。香港の大学院の修学期間が望ましいと思う。(ローズ)

中国の大学院と比べて、香港の大学院は修学期間が短いし、カリキュラムがいい。日本の大学院は期間が長いし、遠いから留学へ行かなかった。(ノラ)

このように、香港での大学院課程を選択する背景には、主に「修学期間」と「カリキュラム」という二つの面が大きく影響しているようであった。

4. 2 大学院で一番勉強になったこと

香港の大学院での学習について、日本に留学したこともある調査協力者は、日本での学習より香港での学習のほうが忙しいと述べていた。その中で、調査協力者は短い期間でより多くのことを学べたという。

ビジネスに関する授業を通して日本人の思想がわかるようになった。(メアリー)

日本語で書いたり、聞いたり、話したりする能力が高まった。日本文化も深く理解することができた。(ローズ)

日本語に関する理論を多く学んだ。そのおかげで、香港で学習する前に働いていた職場での間違った方法についてより理解することができるようになった。これらの理論は将来の仕事に役に立つと思う。(ケリー)

このように調査協力者は日本語そのものの能力だけではなく、日本文化を含めた様々な理論的背景を学ぶことができたという。また、期間の短さにもかかわらず、「コストパフォーマンス」が高く、より多くのことを学べたと調査協力者たちは述べている。

香港の大学院の修学期間は中国大陸のものより短い、カリキュラムがよいため、修学期間が通常3年かかる中国大陸の大学院と比べても、勉強できることがもっと多かった。コストパフォーマンスが高い。(メアリー)

香港の大学に来る前、1年は短いから、あまり勉強できないだろうと思っていたが、香港の大学院で学び、非常に勉強になったと思う。(ケリー)

このように、短い期間でより多くの「日本語・日本文化」の知識を学習できることは香港留学の魅力の一つと言えるであろう。

そして、調査協力者達は、中国大陸と異なる学習方法や香港という多言語文化環境を通して、「日本語・日本文化」の知識以外のことも香港の大学院で多く学習できたという。

中国でも、日本でも、香港のような多言語文化を体験することができない。香港では普通語、英語、広東語も多く使われている。香港で英語、広東語の能力を高めることができた。(アイビー)

香港の大学院ではいろいろなタイプのコースがある。大学院での「日本語教育」の学習を通して、自分が教師になりたいという気持ちを再認識した。(ケリー)

日本語を勉強するより、大学院での学習を通して、自分の思考と分析能力が高まったと言えると思う。大学院の先生たちの授業から、思考と分析能力が高まった。(リサ)

また、日本語だけではなく、英語を学ぶこともできる。

日本語だけではなく、英語も勉強したい。香港で英語を勉強するのはよいと思う。(アラン)

香港の大学の修学期間が短いから、卒業が他の大学院生より早いし、英語と広東語を学ぶこともより便利だ。また、就職市場がもっと広い。香港を踏み台として、他国へ就職することも可能だ。(アイビー)

そして、豊富な内容にもよさを見出していた。

香港の大学の教師は視野が広く、知識面も豊富だから、自分がいつも最新の学習材料を入手することができる。自分の視野ももっと広がる。(メアリー)

**なぜ中国からの日本語学習者が香港に留学するのか
—中国大陸からの日本語学習者へのインタビューを通して—**

日本語に関する言語、文化、教育などの理論は将来、仕事の役に立つ。中国大陸の大学院で勉強したことは日本語教師、研究者になりたい人にしか役に立たないと思う。(ケリー)

このように、調査協力者達は他の大学院生と同じように、香港の大学院でも「日本語・日本文化」に関する知識をたくさん勉強したが、それよりもむしろ「日本語・日本文化」と関係しないことの学習に対してよさを見出していたことが窺える。それは、日本へ留学し、日本語や日本文化を勉強するより、時間を無駄にせず、様々なことを学べるという香港の学習環境によさを見出していたのではないだろうか。また、林(2003)によると、中国大陸と比べると、香港の大学では1) 英語教育のレベルが高い、2) 外国人教師が多い、3) 留学生も多いという特徴があり、香港の大学院教育はより国際化を実現しているという。日本語を専門とする学生にとって、このような国際化された学習環境で、日本へ行かずとも、日本人教師から「日本語・日本文化」に関する知識を学習することができ、日本人のクラスメートとも交流することが可能なのは香港という特色を生かしているからであろう。

4. 3 調査協力者達の今後の進路

今後の進路について、ノラが「どんなタイプの企業かはわからないが、自分の日本語を活かせる企業に就職したい」と述べるように、他の調査協力者達も日本語を活かせる企業に就職したいと考えているようである。以下、調査協力者達の今後の進路について記す。

表2 調査協力者達の今後の進路（希望）

名前（仮名）	就職したい仕事	就職したい場所
ケリー	語学学校を開きたい、日本語教師になる。	中国大陸
メアリー	日系企業でセールス、営業、マーケティングなどを担当する	香港
ローズ	出版社	香港
オリーブ	香港で様々な仕事を体験する。経験を積んだあと、日本料理店を開きたい	香港
アラン	日系企業でセールス、営業など	香港
リサ	金融に関する企業	香港
フローラ	日本語教師	香港
アイビー	ビジネス、セールス、営業、マーケティングなど	香港、日本
ノラ	まだ計画していない	中国大陸

しかしながら、このように将来は日本語を生かした仕事に就きたいと考える調査協力者達ではあるが、必ずしも日系企業に勤務したいかという、そういうわけではない。以下、ローズとのインタビューの書き起こしである。

筆者： 香港で日本語を活かせる仕事を探したい？

ローズ： そうです。

筆者： 日系企業？

ローズ： いいえ、日系企業に就職したくない。日本文化にはいい物がたくさんあり、私も好きだが、日系企業の文化はあまり好きではない。ルールが多すぎて、私には合わないと思う。

調査協力者達は香港で日本語専攻の大学院に通ったものの、日系企業に就職したいと応えた者は9人のうち2人しかいなかった。それよりむしろ金融や営業、マーケティング、出版社など多種多様の就職先を希望しており、香港での職業経験を将来のキャリアに生かしたいと考えているようであった。

香港は国際化していて、チャンスが多く、世界の物と接触できるのは便利だ。(ローズ)

香港にはチャンスが多い。香港での就職経験は貴重だ。(アラン)

香港を踏み台として、将来外国へ就職することができることを期待している。(ローズ)

チャンスがあれば、欧米に行きたい。(オリーブ)

中国大陸からの学習者にとって香港での職業経験は将来のキャリアや中国大陸や日本、他国への転職へとつながる可能性を秘めており、香港留学の魅力の一つになっているようであった。また、在香港日本国総領事館(2013)によると、2011年の日本と中国大陸の貿易総額は3,449億ドルであるが、日本と香港の貿易総額は3,893億ドルに達するという。さらに、香港特別行政区政府統計処(2013)によると、2013年での香港における海外企業の中では日系企業が最も多く、香港にとって日本は中国大陸、米国の次に、第3位の貿易相手国となっているという。日本と緊密な経済関係にある香港において、日本語専門の学生にとっては就職できる機会がより多くなっているのではないだろうか。なお、香港にとって中国大陸は第1位の貿易相手地域となっており、香港においては流暢な北京語が要求される求人情報も多い。よって、貿易に関する会社に就職したい学生にとって、中国大陸で就職すれば北京語は母語であるが、香港では北京語が長所になるということもある。卒業した後の進路から考えれば、中国大陸からの学習者にとって香港での就職は留学の魅力の一つとなっているのではないだろうか。

5. おわりに

本稿では、香港の大学院で日本語修士課程に通う中国大陸からの学習者へのインタビューから、彼・彼女らが留学先としてなぜ日本ではなく香港を選んだのかを考察した。その結果、香港の大学院は修学期間が短く、優れたカリキュラムを提供していることが香港留学の重要な要素であるということが浮き彫りとなった。また、インタビューを通して、国際的な香港では、就職できる機会が多く、英語のスキルアップも期待できると考える調査協力者も多くいることがわかった。グローバル化が加速している現在、日本語を専攻し将来のキャリアに単に日本語だけを生かすのでは、雇用されにくいという現状がある。今後の日本語修士コースでも、「日本語・日本文化」の知識以外にも、英語やビジネスなどといった他分野との連携を含めた授業内容を提供することが今後益々求められるようになるのではないだろうか。

参考文献

- 香港入境事務處（2012）「附录 5—已发出的签证／入境许可证统计数字」
<http://www.immd.gov.hk/publications/a_report_2012/sc/appendice/appendices-05.htm>（2014年1月11日）
- 香港特別行政區政府統計處（2013）「2013 年代表香港境外母公司的駐港公司按年統計調查報告」
<<http://www.statistics.gov.hk/pub/B11100042013AN13B0100.pdf>>（2014年1月11日）
- 在香港日本國總領事館（2013）「香港・マカオ經濟概観——一国二制度のもと、「中国經濟」との關係を深める香港・マカオ經濟について」<http://www.hk.emb-japan.go.jp/2013-09_hk-economic.pdf>
（2014年1月11日）
- 劉志明（1996）「中国における「日本語の国際化」——中国日本語觀調查より」『國際協力論集』1号, 137-154
- 若生正和・長谷川ユリ・中山あおい（2012）「日本留学の動機・体験・効果：交換留学生を中心に」『大阪教育大学紀要第IV部門』61号, 169-184
- 譚紅艷・渡邊勉・今野裕之(2010)「動機つけの自己決定性が`在日中国人留學生の主觀的幸福感および`学習・生活への適応に及ぼす影響」, 『心理学研究』6号,43-54,
- 文部科学省（2013）「「日本人の海外留學者数」及び「外国人留學生在籍狀況調査」について」
<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/02/1330698.htm>（2014年1月11日）
- 南方周末（2012）「请“狼”入室——港校如何进入内地招生」<<http://www.infzm.com/content/79173>>
（2014年1月11日）
- 林伟连（2003）「香港与内地高校研究生教育的几点比较」『黑龙江高教研究』3号, 155-157
- 王恬（2006）「到香港读书，你准备好了吗」, 『高中』9号, 67-68